香川県保険医協会・歯科技工士会　コラボセミナーのご案内

森本敦史先生

精度の高い補綴物製作のコツ

補綴物の精度は齲蝕や歯周病の再発と大きく関係します。また、調整に時間がかからないため、チェアタイムの短縮となり患者様のストレスが軽減されるだけでなく、医院のイメージアップにも貢献します。
診療室内での正確な印象による作業用模型や咬合採得があってこそ、また、技工室側での適切な作業が行われてこそ、補綴物の精度は上がってきます。診療室内でも技工室内でも精度が落ちないよう努力しているはずですが、「指示したとおりの補綴物ができていないじゃないか。」（歯科医師）、「正確な歯型や噛み合わせが採れていないのに補綴物の出来栄えに口を出されるのはちょっと……」（技工士）というようなことを多く耳にします。
ここで初心に立ち返り、日常臨床においてより精度の高い補綴物を製作するために歯科医師と技工士がどのように連携して作業を進めているかをお話しさせていただきます。

前川泰一先生

～調整量の少ない技工物をつくるための取り組み～

技工の仕事の中で一番避けたい事は技工物の再製では無いだろうか。再製料金は各ラボにより様々ではあるが料金をいただけない場合も多く、その場合は単純に技工物を半額で作製しているのとかわらない。技工士の労働条件、待遇が問題になっており、離職率や学校の閉鎖など技工士を続ける人、または技工士を志す人がどんどん少なくなってきている。再製技工を無料で行うということは、同じ売り上げをあげるのに倍の時間が必要になり、長時間労働にもつながるのである。更に技工士だけではなく、歯科医師、歯科衛生士、そして何より患者様にご迷惑がかかり誰も得をすることがない。再製にならなくても口腔内での調整に時間がかかる技工物はできるだけ無くしていきたいものである。昨今ではラボの機械化デジタル化が進み、CAD/CAM、Inter Oral Scannerが登場して進化し、精度のいい補綴物が誰にでも作れるようになってきた。しかし、それを扱う私達歯科技工士が、形態（審美）機能（咬合）を知らなければ高額な機械を使っても再現することは不可能である。
今回話をさせて頂く内容は自身の20数年の技工を振り返り、基本的な作業の中での小さなコツから最近のCAD/CAM技工まで、年齢層、経験年数に関係なく少しでもお役にたつことがあればと考えて発表させて頂きます。